

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
看護学概論 I (人間、健康、看護、環境)	1	1	前期	看護師	本校副校長	副校長	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 80 )% ・ 実習など講義形式以外( 20 )%			
評価方法	筆記試験			教科書・参考資料	基礎看護学①看護学概論:医学書院 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法:日本看護協会出版会 やさしい看護理論:メディカ出版 看護の基本となるもの:日本看護協会出版会 看護覚え書:現代社		
概要	看護の概念、看護の機能、基本的な看護理論、看護倫理について理解する。また、看護の対象を身体的、精神的、社会的側面より総合的に理解し、人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における看護の役割及び位置づけについて理解する。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健師助産師看護師法で定義されている看護師業務を理解出来る。</li> <li>2. 看護倫理の概要を理解し、事例を通して何が問題で、どうしていけば良いかを見つけ出すことが出来る。</li> <li>3. 代表的な看護理論家8名分の理論の概要と著書が理解出来る。</li> <li>4. 看護理論の中から自分の考えに合うものを見つけ出し、自分なりの看護観を持つことが出来る。</li> <li>5. 基礎看護学実習1-3において、看護理論および看護倫理を考え、発表することが出来る。</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
1	序章 看護を学ぶにあたって 看護師とは何をやる職業なのだろうか						
2~3	第1章 看護とは ②看護とは 保健師助産師看護師法について 第1部 法律の基礎知識 第2部 保健師助産師看護師法の構造 第3部 重要条文の解説 (私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法)						
4~6	看護理論 理論家の紹介・説明 F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン他代表的な理論家8名の理論のまとめ						
7	B 看護の役割と機能						
8.9	看護実践とその質保証に必要な条件						
10	第5章 看護における倫理 A 現代社会と倫理 B 医療をめぐる倫理の歴史と看護倫理						
11.1	現代医療におけるさまざまな倫理的問題 ①~⑥の問題についてグループで調べ発表						
13	第2章 看護の対象の理解						
14	第3章 A 健康のとらえ方						
15	終講試験						
留意事項							
講義に加え、グループワークの時間も取り入れる。							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
看護学概論Ⅱ (看護の変遷)	1	1	後期	看護師	本校校長	校長	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 90 )% ・ 実習など講義形式以外( 10 )%			
評価方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	基礎看護学①看護学概論:医学書院		
概要	看護の歴史の変遷、看護の役割、看護の対象、看護の位置づけ、定義づけ、今後の課題を理解する。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界の看護の歴史の変遷を理解できる。</li> <li>2. わが国の看護の歴史の変遷を理解できる。</li> <li>3. 看護職の資格と養成にかかわる制度を理解できる。</li> <li>4. 看護職の養成制度の課題について討議し、自分なりの考えを持てる。</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
1	第1章 看護とは	A看護の本質	①看護の変遷				
2~4	第4章 看護の提供者	A職業としての看護	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の発展 ⑤職業としての看護の新たな展開				
5		B看護職の資格・養成制度・就業状況	①看護職の資格 ②看護職の養成制度				
6		C看護職者の就業状況と継続教育	②専門看護師・認定看護師				
7		D看護職の養成制度の課題	①看護職養成の場としくみに関する課題 ②看護基礎教育の内容・方法をめぐる検討 ③「特定行為に係る看護師の研修制度」の開始				
8	終講試験						
留意事項							
看護職養成制度の課題の時間は、グループで討議する時間を設ける。							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
基礎看護技術論 I (観察・バイタルサイン・フィジカルアセスメント)	1	1	前期	看護師	本校専任教員	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 70 )% ・ 実習など講義形式以外( 30 )%			
評価 方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	系統看護学講座専門1基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院)		
概要	看護行為の基礎となる知識、技術、態度を養うことにより、対象に必要な日常生活の援助が有効かつ計画的に展開できることを理解する。又、患者の健康レベルに応じた看護援助の方法および臨床で活用されている診療技術の基礎を学び、対象特性に応じて技術提供ができるよう演習する。且つ、看護師として必要な判断力(問題解決能力、行動力)を身に付け、その判断に基づく介入及び技術を適応できる能力を養う。						
目標	1. 観察について目的・方法が理解できる 2. 身体計測方法が理解できる 3. バイタルサインの測定・結果の判断ができる 4. フィジカルアセスメントの手法を理解できる 【演習】 ・バイタルサイン測定 ・フィジカルアセスメント(観察法)						
回数	授業内容・計画						
1	授業オリエンテーション/ ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの目的・技法						
2～4	バイタルサイン						
5	実技試験 (原理原則を踏まえて正確に測定)						
6	身体計測/電子血圧計での測定演習						
7	腹部のフィジカルイグザミネーション						
8	呼吸器系のフィジカルイグザミネーション						
9	循環器系のフィジカルイグザミネーション						
10	呼吸・循環器系のフィジカルイグザミネーション						
11	筋骨系・神経のフィジカルイグザミネーション						
12	頭頸部・感覚器のフィジカルイグザミネーション						
13	バイタルサイン測定						
14	外皮系・心理社会状態のアセスメント						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
基礎看護技術論Ⅱ (摂食、排泄、更衣・整容・エンゼルケア)	2	1	前期	看護師 看護師・助産師・保健師	本校専任教員 本校専任教員	専任教員 専任教員	44 16
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 75 )% ・ 実習など講義形式以外( 25 )%			
評価 方法	筆記試験 演習課題			教科書・ 参考資料	基礎看護技術Ⅱ:医学書院 基礎4・臨床看護技術:医学書院		
概要	看護行為の基礎となる知識、技術、態度を養うことにより、対象に必要な日常生活の援助が有効かつ計画的に展開できることを理解する。又、患者の健康レベルに応じた看護援助の方法および臨床で活用されている診療技術の基礎を学び、対象特性に応じて技術提供できるよう演習する。且つ、看護師として必要な判断力(問題解決能力、行動力)を身に付け、その判断に基づく介入及び技術を適応できる能力を養う。						
目標	1. 安全で安楽な食事援助ができる 2. 安全で安楽な排泄援助ができる 3. 安全で安楽な衣生活援助ができる 4. エンゼルケアについて理解できる 【演習】・食事介助・経管栄養法・床上排泄の介助・導尿・浣腸・浴衣式寝衣交換・整容						
回数	授業内容・計画						
1・2 3 4 5 6 7 8 9 10・11 12・13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24・25 26 27 28 29 30	第2章 食事援助技術 健康な人にとっての「食事・栄養」の意義 栄養と食事に関する基礎知識 食事・栄養のニーズのアセスメント 健康状態に応じた食物・栄養摂取方法とケア 食事援助の実際(演習) 患者の状態に合わせて介助ができる 健康状態に応じた食物・栄養摂取方法 健康状態に応じた食物・栄養摂取方法の実際(演習) モデル人形での経鼻胃管カテーテルの挿入・確認ができる 第3章 排泄援助技術 健康な人にとっての「排泄」の意義 排尿・排便のニーズのアセスメント 排尿・排便障害の種類 排尿・排便障害の実際 排尿・排便障害の実際(演習) 患者に合わせた便器・尿器を選択し排泄援助ができる 排尿・排便障害の実際(自然排尿・排便ができない患者への援助) 排尿・排便障害の実際(演習) モデル人形に導尿ができる モデル人形に浣腸ができる 排尿・排便障害の実際(排便・ストーマ管理) まとめ・試験 第6章 清潔・衣生活援助技術 B 病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 B 病床での衣生活の援助 ②援助の実際-②病衣・寝衣の交換(演習) B 病床での衣生活の援助 ②援助の実際-②病衣・寝衣の交換・輸液ラインがはいっている 場合の寝衣交換の実際(演習) 第6章 清潔・衣生活援助技術 A 清潔の援助 ②清潔の援助の実際-⑦整容 A 清潔の援助 ②清潔の援助の実際-⑦整容(演習) 第15章 「死の看取りの援助」 C 我が国の風習に根づく死後の処置 D死後の処置 まとめ・試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
基礎看護技術論Ⅲ (清潔)	1	1	前期	看護師・助産師・保健師 歯科衛生士	本校専任教員 津山中央病院歯科衛生士	専任教員 非常勤講師	28 2
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 50 )% ・ 実習など講義形式以外( 50 )%			
評価方法	筆記試験 ・ 演習課題 ・ 提出課題			教科書・参考資料	基礎看護技術Ⅱ:医学書院 5章 6章 8章 基礎・臨床看護技術:医学書院		
概要	看護行為の基礎となる知識、技術、態度を養うことにより、対象に必要な日常生活の援助が有効かつ計画的に展開できることを理解する。又、患者の健康レベルに応じた看護援助の方法および臨床で活用されている診療技術の基礎を学び、対象特性に応じて技術提供ができるよう演習する。且つ、看護師として必要な判断力(問題解決能力、行動力)を身に付け、その判断に基づく介入及び技術を適応できる能力を養う。						
目標	1. 清潔セルフケアの意義を述べる 2. 安全で安楽な全身清拭の援助ができる 3. 安全で安楽な洗髪の援助ができる 4. 安全で安楽な手浴・足浴・陰部洗浄ができる 5. 安全で安楽な口腔保清の援助ができる 【演習】・全身清拭 ・陰部洗浄 ・手浴 足浴 ・洗髪・口腔ケア ・体圧測定 ・ポジショニング						
回数	授業内容・計画						
1	6章 清潔・衣生活援助技術 A 清潔援助 ①清潔援助の基礎知識 ②清潔援助の実際-①入浴・シャワー浴						
2	②清潔援助の実際-歯科衛生士による講義						
3	②清潔援助の実際-②全身清拭 ⑥陰部洗浄						
4・5	②清潔援助の実際-②全身清拭 ⑥陰部洗浄(演習)						
6・7	石鹸清拭(右下肢と背部のみ)と寝衣交換(演習)						
8	②清潔援助の実際-④手浴⑤足浴とフットケア						
9	②清潔援助の実際-④手浴(演習)						
10	②清潔援助の実際-⑤足浴とフットケア(演習)						
11	②清潔援助の実際-③洗髪						
12・13	②清潔援助の実際-③洗髪(演習)						
14	8章 創傷管理技術 C褥瘡予防						
	5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 A体位保持(ポジショニング)(演習)						
15	まとめ・終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
基礎看護技術論Ⅳ (環境、睡眠、移動)	1	1	前期	看護師 保健師	本校専任教員	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 50 )% ・ 実習など講義形式以外( 50 )%			
評価方法	筆記試験 学習意欲 提出レポート			教科書・ 参考資料	基礎看護技術:医学書院1. 4. 5章 基礎・臨床看護技術:医学書院		
概要	看護行為の基礎となる知識、技術、態度を養うことにより、対象に必要な日常生活の援助が有効かつ計画的に展開できることを理解する。又、患者の健康レベルに応じた看護援助の方法および臨床で活用されている診療技術の基礎を学び、対象特性に応じて技術提供ができるよう演習する。且つ、看護師として必要な判断力(問題解決能力、行動力)を身に付け、その判断に基づく介入及び技術を適応できる能力を養う。						
目標	1. 病床環境を整えることができる 2. 安全で安楽な体位変換ができる 3. 安全で安楽な移乗への介助ができる 4. 睡眠を促す援助、電法の援助ができる 【演習】 ・ベッドメイキング ・シーツ交換 ・体位変換 ・車椅子移乗介助 ・電法						
回数	授業内容・計画						
1	第1章 環境調整技術 生活環境を整える ・療養生活の環境 ・病室の環境のアセスメントと調整						
2	第4章 活動・休息援助技術 姿勢・ボディメカニクス ・体位						
3 4	【演習】ベッドメイキング						
5 6	【演習】リネン交換						
7	体位変換 ・左右への移動 ・仰臥位⇔側臥位 ・仰臥位⇔長座位⇔端座位⇔立位						
8 9	【演習】体位変換 ・左右への移動 ・仰臥位⇔側臥位 ・仰臥位⇔長座位⇔端座位⇔立位						
10	移乗・移送 ・車椅子 ・ストレッチャー ・歩行介助						
11 12	【演習】移乗・移送 ・車椅子 ・ストレッチャー ・歩行介助						
13	睡眠・休息の援助						
14	第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 電法 【演習】電法:氷枕の作り方						
15	終講試験						
留意事項							
・講義は全員一緒に、演習はグループに分かれて行う。 ・講義・演習については、欠席した場合、原則として補講は行わない。 ・演習内容によっては、担当教員のほかサポート教員が参加して指導に当たる。							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
基礎看護技術論Ⅴ (治療・処置に伴う援助技術)	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 50 )% ・ 実習など講義形式以外( 50 )%			
評価 方法	筆記試験・提出課題			教科書・ 参考資料	基礎看護学Ⅰ:医学書院 2章 基礎看護技術Ⅱ:医学書院 7・8・9・10・11・12・13・14章 基礎・臨床看護技術:医学書院		
概要	看護行為の基礎となる知識、技術、態度を養うことにより、対象に必要な日常生活の援助が有効かつ計画的に展開できることを理解する。又、患者の健康レベルに応じた看護援助の方法および臨床で活用されている診療技術の基礎を学び、対象特性に応じて技術提供ができるよう演習する。且つ、看護師として必要な判断力(問題解決能力、行動力)を身に付け、その判断に基づく介入及び技術を適応できる能力を養う。						
目標	1. 検査に関する援助を述べる 2. 酸素療法、吸引の方法を理解できる 3. 与薬(経口、注射)に関する一連の手順を述べ、シュミレーターを用いて実施できる 4. 無菌操作について理解し、ガウンを正しく着ることができる 5. 身体の部位に合わせ包帯を巻くことができる 【演習】・吸引 ・無菌操作 ・筋肉注射 ・静脈血採血 ・無菌操作、ガウンテクニック ・包帯法 ・血糖検査						
回数	授業内容・計画						
1	第2章「感染防止の技術」 A「感染防止の基礎知識」 B「標準予防策(スタンダードプリコーション) C「感染経路別予防策」						
2	【演習】衛生的な手洗い、無菌操作						
3	第8章「創傷管理技術」 A「創傷管理の基礎知識」 B「創傷処置」 C「褥瘡予防」 第10章「救命救急処置技術」 C「止血法」						
4	【演習】止血法・包帯法						
5	第11章「症状・生体機能管理技術」 A「症状・生体機能管理技術の基礎知識」 B「検体検査」 C「生体情報のモニタリング」 第12章「診療・検査・処置の介助技術」 A「診察の介助」 B「検査・処置の介助」						
6	第7章「呼吸・循環を整える技術」 A「酸素吸入療法」 B「排痰ケア」 C「持続吸引」 D「吸引」						
7	【演習】中央配管による酸素吸入 中央配管による吸引						
8	与薬の知識・技術						
9	第9章「与薬の技術」 A「与薬の基礎知識」 B「経口与薬・口腔内与薬」 C「吸入」 D「点眼」 E「点鼻」 F「経脾的与薬」 G「直腸内与薬」 H「注射」 I「輸血管理」						
10・11	第13章「感染防止の技術」 第14章「安全確保の技術」 【演習】・筋肉内注射・薬液の吸い上げ ・輸液の準備・輸液速度調節						
12	第11章「症状・生体機能管理技術」 第13章「感染防止の技術」						
13・14	【演習】・静脈血採血 ・血糖測定						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
基礎看護技術論VI (看護記録、看護過程)	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 80 )% ・ 実習など講義形式以外( 20 )%			
評価方法	試験(小テスト)・課題			教科書・ 参考資料	基礎看護学 I :医学書院		
概要	看護記録の意義、目的を踏まえた記録の方法を習得する。 看護過程の考え方を理解するとともに、アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価の基礎知識を学習し、事例での演習を行い、一連の思考過程を学習する。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護記録の意義と目的が言える</li> <li>2. 看護過程の思考と目的が言える</li> <li>3. 看護過程の一連の思考過程と要素を理解する</li> <li>4. 事例を用いて看護過程の要素を記述することができる</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
1	看護過程の目的と意義 問題解決型思考の考え方						
2	アセスメント 情報収集 主観的情報と客観的情報 【演習】 ・患者への情報収集 ・疾患・治療の自己学習						
3	情報整理 ゴードンの機能別健康パターンの枠組み 【演習】 ・収集した情報の整理						
4	1. 健康知覚健康管理 2. 栄養代謝						
5	3. 排泄 4. 活動・運動 5. 睡眠・休息						
6	6. 認知・知覚 7. 自己知覚						
7	8. 役割・関係 9. 性・生殖 10. ストレス・コーピング						
8	11. 価値・信念						
9	情報の分析と解釈 【演習】 ・整理した情報の解釈						
10	看護問題の明確化						
11	看護診断						
12	問題の優先順位						
13	看護計画						
14	期待される成果と表記 【演習】 1. 脳梗塞の患者の事例 看護計画の立案と表記 習った知識をもとに看護過程の記述を実施する						
15	看護記録の目的、法的位置づけ 看護記録の記載・管理における留意点 終講試験						
留意事項							



授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数	
				職種	役職			
臨床判断の基礎 (知識と看護援助の統合)	1	2	前期	看護師・助産師・保健師	本校専任教員	専任教員	15	
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)				
該当する ○ 該当しない				講義形式( 15 )% ・ 実習など講義形式以外( 85 )%				
評価方法	提出物、出席状況、ワークの取り組み姿勢			教科書・参考資料	基礎看護学[1～3]:医学書院 基礎・臨床看護技術:医学書院			
概要	看護実践の場に対応できる臨床判断能力の基礎となる知識を、日常生活援助に活用する過程を学ぶ。 看護師の思考として、既習の学習内容を活用し、患者に必要な観察を行いながら、日常生活援助を実施する過程、状況の解釈をしながら実施する過程を疑似体験させることにより、専門基礎分野、基礎看護学で学習した知識と技術を、臨床の場面で実際の患者にどのように活用するのかを学ぶ。							
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断を行うために必要な思考方法について理解できる</li> <li>2. 症状観察の場面を通し、患者の状況の変化に気づくことができる</li> <li>3. 専門基礎分野、基礎看護学で既習した知識、技術を患者の観察、援助に活用する方法を理解できる</li> <li>4. 意図的に論理的思考を働かせ、臨床実践ができる</li> </ol>							
回数	授業内容・計画							
1	導入	科目の進め方、課題と演習内容 臨床判断を行うために必要な思考方法(臨床推論)について						
2	個人ワーク	演習事例について学習を進める						
3	演習① GWワーク	症状観察のために必要な情報・観察は何か 起こりうる危険、合併症など予測しておくべき状況は何か						
4	演習② 動画視聴	症状観察の場面 動画①②						
5		動画①②から模擬患者の異変に「気づく」 模擬患者に何が起きたのか「解釈する」						
6	GWワーク	模擬患者に起きた変化は何を意味するのかを検討する「解釈する」 模擬患者にすべき望ましい対応を考える「対応する」						
7	GW発表 動画③視聴							
8	まとめ 報告の仕方 記録の仕方							
留意事項								

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
看護研究	2	3	前期	看護師	本校副校長	副校長	60
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( 20 )% ・ 実習など講義形式以外( 80 )%			
評価方法	事例研究の取り組み姿勢、内容、発表を総合的に評価			教科書・参考資料	別巻 看護研究:医学書院		
概要	看護研究の必要性、目的、看護の実践的研究の方法等について理解する。 事例報告をまとめ発表する。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における研究の意義、特徴が理解できる。</li> <li>2. 看護における研究の方法が理解できる。</li> <li>3. 事例をまとめ発表することができる。</li> <li>4. 事例によって実践を振り返り考察することにより、自己の看護観を確立することができる。</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
1.2	Part I 看護研究とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の意味</li> <li>2. 研究に必要な基礎知識</li> <li>3. 研究方法の種類</li> </ol> Part II 研究方法の特徴と展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献研究</li> <li>2. 調査研究</li> <li>3. 疫学研究</li> <li>4. 実験研究</li> <li>5. 事例研究</li> </ol> Part III 研究のプロセス <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究における文献の活用</li> <li>2. 研究テーマの設定と計画</li> <li>3. 研究における倫理的配慮</li> <li>4. データ収集と分析</li> <li>5. 結果の表現方法</li> </ol>						
3	【小林由美恵司書】 文献検索の演習(メディカルオンラインの活用)						
4~24	【事例研究の実際】 各チュータで指導 事例研究の演習						
25~30	研究発表						
留意事項							
文献検索は、メディカルオンラインを使用する。 研究発表は、学生が司会や座長など役割分担し、全員が一人10分で発表する。							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
基礎看護学実習 I (外来実習・看護師業務見学実習・日常生活援助)	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	45
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( )% ・ 実習など講義形式以外( 100 )%			
評価方法	看護実践・実習に対する意欲・態度・実習記録・課題レポート・出席日数を総合的に評価。			教科書・参考資料	臨地実習要綱		
概要	1. 外来の概要と外来を訪れる患者を受診過程に沿って理解する 2. 療養生活の場面と看護実践を見学することにより、患者の健康障害に合わせて日常生活を整える援助を学習する 3. 看護実践場面を通し、基礎的知識、技術および態度等、看護の基礎的能力を養う						
目標	I-1 1. 外来の概要を理解する 2. 外来を訪れる患者の状況を理解する 3. 看護師等の患者への接し方を学ぶ I-2 1. 看護の対象である患者をイメージする 2. 入院患者の生活環境を知る 3. 看護師が患者とどのように関わっているかを学ぶ I-3 1. 患者の日常生活を知る 2. 患者との良いコミュニケーションを築く 3. 患者の基本的欲求に基づく援助の必要性を理解し、援助の方法を選定する 4. 日常生活の援助技術を理論的裏付けをもって患者に実践する 5. 実施した援助の評価をする						
回数	授業内容・計画						
	I-1 1年次後期 津山中央病院・津山中央記念病院 外来 病院の構造・環境・概要を知るための見学 2時間 患者に付き添いながら学ぶ 6時間 I-2 1年次後期 津山中央病院 病棟 1日目:午前3時間30分 2日目:午後3時間30分 看護師について病棟の構造・環境・看護業務を知る 看護師について患者との接し方を学ぶ I-3 1年次後期 津山中央病院 病棟 1日6時間 ×5日間 患者とのコミュニケーションを経験する 患者に日常生活援助を実施できる 実施したことを振り返る 視点 ・援助の必要性 ・技術の正確さ ・安全安楽に対する評価・援助の意味づけ ・患者への気づき ・看護の気づき						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
基礎看護学実習 II (看護過程の展開・日常生活援助技術実習)	2	2	前期	看護師	本校専任教員	専任教員	90
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式( )% ・ 実習など講義形式以外( 100 )%			
評価方法	看護実践・実習に対する意欲、態度・実習記録・出席日数を総合的に評価。			教科書・参考資料	臨地実習要綱		
概要	対象者の日常生活における問題を理解し、個々に適した援助を習得する。 看護過程の展開を行う。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の日常生活行動を援助するための情報収集を行う</li> <li>2. 患者の情報を分析し、看護上の問題を明らかにし、計画を立案する</li> <li>3. 患者に応じた基礎看護技術を看護計画に沿って実施する</li> <li>4. 実施した看護の評価をする</li> <li>5. 看護師としての基本的な態度を学ぶ</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
	2年次 前期 津山中央病院 病棟 1日6時間 × 5日間 × 3週間 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 場面を活かした情報収集</li> <li>2) 患者以外からの情報収集</li> <li>3) 主観的・客観的な情報の収集</li> <li>4) ゴードンの枠組に沿った情報の整理</li> </ol> </li> <li>2. 情報の分析               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 整理した情報の解釈</li> <li>2) 関連図の記述</li> <li>3) 問題や力の特定</li> <li>4) 優先順位の決定</li> <li>5) 目標の設定</li> <li>6) 具体的な看護計画</li> </ol> </li> <li>3. 看護技術の実践               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の安全を保障する</li> <li>2) 患者の安楽を考える</li> <li>3) 患者の反応を観察する</li> </ol> </li> <li>4. 実施した援助の評価               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 振り返りを日々記述する</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の正確性</li> <li>・安全の確保と安楽の配慮</li> <li>・看護の気づき</li> <li>・援助の意味付け</li> </ul> </li> <li>5. 基本的な態度               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者への関心、患者とのやりとり</li> <li>2) 看護師とのやりとり</li> <li>3) 指導に対する態度、修正</li> <li>4) 実習への取り組み姿勢、意欲</li> <li>5) 自己学習</li> </ol> </li> </ol>						
留意事項							